列島いんふぉめーしょんPLUS　地域企業特集

第3回 地域のポテンシャルを幅広くいかす『地域商社』

地域の技術や商材を発掘・支援し、総合的な地域創生事業を推進。

三重県松阪市

1丁目には伊勢店ばかり

三重県には多くの名産品がある。伊勢えび、松阪牛、あわび、牡蠣といった食品類から、尾鷲ひのき、伊勢木綿、松阪木綿、鈴鹿墨、伊勢春慶、伊賀組紐、伊賀焼、萬古焼などなど。わけても木綿は古くから日本人に愛され、珍重されてきた。

これを扱う伊勢商人は、古くから大坂商人、近江商人とともに日本3大商人と言われ、安土桃山時代（16世紀）後半から、地元である伊勢以外に、江戸、大阪、京都の3大都市に出店することで日本全国に商売のネットワークを広げてきたことで知られている。

江戸時代には、その木綿を江戸で売るために江戸に何軒も出店を持つようになり、特に日本橋大伝馬町に多く集まっていたことから、「（大伝馬町）1丁目には伊勢店ばかり」といわれるほどだった。

その伊勢商人たちの生活は大変質素であり、徹底した倹約で知られていた。よく「宵越しの銭は持たぬ」と表現される江戸っ子の気性とは正反対の、倹約生活ぶりから、商売上手な近江商人と伊勢商人を揶揄して、「近江泥棒伊勢乞食」などということばが生まれるほどだった。

ネーブル・ジャパン
濱岡社長

地方創生の推進

そうした伊勢商人たちの商魂と、我が国が推進する地方創生の機運の中で、東海地方では初めての民間資本100％の銀行系地域商社として誕生したのが『株式会社ネーブル・ジャパン』である。

その大きな特徴は、他の銀行系地域商社が道・県単位の規模であるのに対し、16万都市（松阪市）を基盤にしていることである。そして規模の大きな銀行系地域商社が物販を事業の中心に据えているのに対し、『株式会社ネーブル・ジャパン』は地元ベンチャー育成を収益の柱に考えているのだ。

才能あるクリエーターの力を活用して、地域の素材を付加価値の高い商品に変えるプロセスを重視し、三重県で埋もれた商材を発掘し、商品化するプロジェクトに取り組んでいる。

『ネーブル・ジャパン』というネーミングは、本社の置かれている松阪市は古代から「ヒト、モノ、カネ、情報」が集まり、数々のイノベーターを輩出してきた「時代を先読みする地域」であり、地政学的な見地に立つと、東西の軸（＝中央構造線）と南北の軸（＝伊勢神宮がある東経136・5度）の交点近辺にあるだけでなく、三街道（参宮街道、伊勢本街道、和歌山街道）の交差点でもあり、更には神の住まう神宮に隣接する地域でもある。まさに日本の臍（Ｎａｖｅｌ）に相応しい地域であることから、この日本のヘソ・松阪から地方創生のイノベーションを起こすという思いを込めて『株式会社ネーブル・ジャパン』と命名したという。

ベンチャー育成・物販そして

『株式会社ネーブル・ジャパン』が現在取り組んでいる事業は、

①新素材事業部門（ベンチャー育成）

A　音響建材・地域材活用事業（企業名：山の加工場ネットワーク）

B　超越コーティング事業（企業名：超越化研、シリカジェン）

②地域ブランド事業部門（物販）

C　オリジナル健康酒の開発・販売

D　カフェインレス珈琲の販売支援事業

E　松阪産エスカルゴの販売支援事業

F　エッセンシャルオイル、保冷剤の商品開発・販売支援事業

G　長期熟成日本酒、奥伊勢の硬水、洞窟農園のキノコ等の商品開発、販売事業

H　その他、地元の商材を使った松阪ブランド商品の開発・販売事業

③その他

I　再生可能エネルギーの電力販売の支援事業

J　PCR検査サービスの代理店事業

となっており、とくにAの音響建材・地域材活用事業では、松阪市に工房を持つ横濱金平氏（山の加工場ネットワーク代表）の知財に着目、各分野のエキスパートと共に社会問題（林業の衰退、難聴者の増大）の解決に挑むとともに地域経済の活性化を図る試みである。

横濱氏の知財は、音のエネルギーを増幅・収束させて1点に集中し、強いエネルギーにしてから巨大な面振動を発生させる技術（国内特許5、国際特許2）である。この技術を使い木材の性質ポテンシャルを最大化させ、人にも環境にも優しいプロダクトを開発したのである。

トドマツスピーカー

ホテルの部屋で地元の木材が鳴る

横濱氏の知財の特徴は、あらゆる木材を介して音を増幅することが可能なことであり、オーディオのみならず、会議室やPA設備など、幅広い用途に活用できるという。さらに、振動を触れて感じることが可能なことから、聴覚に障害のある方にも「音」を感じていただける、これまでにない画期的な技術である。

また対象となる木材を選ばないことから、日本全国に広がる森林から生まれる木材を使って、地産地消の音響ユニットを構築できることにある。

ちなみに2021年10月、札幌市に開業した日本初の中高層木造ホテル『ザロイヤルパークキャンバス札幌大通公園』の全客室（134室）に、〝北海道の木〟である「とど松」を活用したサウンドウッド・システム（幅44㎝×高さ66・5㎝×奥行16・5㎝）が設置され、宿泊客の耳を楽しませているという。

【企業情報】

会社名：株式会社ネーブル・ジャパン

代表者：代表取締役社長　濱岡正己

本社：〒515－0084

三重県松阪市日野町772番地2

（旧第三銀行日野町出張所1F）

鈴木英敬元三重県知事よりのメッセージ

私が三重県知事だった平成27年、松阪市殿町御城番屋敷に「音の出る木」を作っている面白い人がいる、と県職員からの紹介で横濱金平さんと初めてお会いしました。

その3年後、まだベンチャー企業による地域活性化やDX（デジタルトランスフォーメーション）といった言葉は馴染みがなかった頃、「松阪市発のベンチャー育成を大きな柱に据えた企業を立ち上げて、活気ある地域を創生していきます」と、東海地方初の地域商社『株式会社ネーブル・ジャパン』を立ち上げた濱岡正己社長が固い決意を表明されました。あの時から早いもので3年の月日が流れました。いろんなご苦労があったとお聞きしましたが、横濱さんを始めとする松阪市の知財を活かした地域創生、まさに時代を先取りした事業が着実に成果を生み始めております。

私も現在、県知事から衆議院議員に転身し、岸田内閣で「新しい資本主義」における政策として、デジタル社会の推進やスタートアップ支援策の議論を加速させております。今後の日本経済を元気にするためには、東京一極集中を是正し、成長と分配の好循環が必要になります。地方が元気で活躍できるようにする環境整備が、今まさに始まっているところです。

今後もネーブル・ジャパンに対する期待はどんどん大きくなっていくと思います。この勢いを止めることの無いように、地元金融機関を始めとする民間活力、それに行政も応援し、松阪市も三重県も切磋琢磨しながら元気になっていけるよう、国政の場から応援して参りたいと思います。